



熊本地震に係る支援状況報告

4月14日(木)以降に熊本地方で発生した地震被害に対し、発災直後から日本赤十字社の救援救護活動として全国各地の赤十字救護班等は各地の避難所における医療救援や巡回診療等、あわせて避難所などに避難されている方々に対し救援物資の搬送・配布を行ってきました。全国の血液センターからもそれらの要員として職員が出勤していると血液センター独自の業務支援、血液製剤送付などを行ってきました。今回は、それらの支援に当たった職員の手記をご紹介します。

中四国ブロック血液センターとしての支援は以下のとおり。
(5月25日現在)

救援救護活動

救護活動に中四国ブロック血液センター(以下BBC)1名
物資輸送に中四国BBC2名



益城町総合体育館で安眠セットを配布

供給支援業務

| 班 名 | 第1班 | 第2班 |
|-------|-------------------------------------|------------------------|
| 派遣期間 | 4月24日～30日(24、30日は移動日) | 5月1日～7日(1、7日は移動日) |
| 派遣先 | 熊本県赤十字血液センター | 熊本県赤十字血液センター |
| 派遣対象者 | 中四国BBC 3名 広島センター 1名 山口センター 2名 | 中四国BBC 1名 岡山センター 2名 |

検査・製剤支援業務

| 班 名 | 第1班 | 第2班 | 第3班 |
|-------|-----------------------|-----------------------|--------------------|
| 派遣期間 | 4月21日～27日(21、27日は移動日) | 4月26日～5月2日(26、2日は移動日) | 5月1日～7日(1、7日は移動日) |
| 派遣先 | 九州ブロック血液センター | 九州ブロック血液センター | 九州ブロック血液センター |
| 派遣対象者 | 製剤二課 1名 | 製剤二課 1名 | 製剤二課 1名 検査一課 1名 |

血液製剤搬送

※表中の数字：分母は1週間当たりの全国から熊本BCへの搬送本数、分子は中四国ブロックからの搬送本数

| 搬送開始日 | 対象製剤 | A(+) | O(+) | B(+) | AB(+) | 発送日 |
|-------|------------|--------|--------|--------|-------|----------|
| 5月9日 | Ir-PC-LR10 | 7/77 | 0/42 | 0/28 | 7/35 | 毎日 |
| 5月24日 | Ir-RBC-LR2 | 27/240 | 20/180 | 13/120 | 6/60 | 毎週 火・水・木 |

(中四国ブロック血液センター 総務課 池中洋介)

災害救護活動報告 活動期間：平成28年4月18日(月)～平成28年4月21日(木)

熊本県において、4月14日(木)及び4月16日(土)に最大震度7の地震が発生したことにより、甚大な被害が出ている状況下で、日本赤十字社本社からの救護班派遣の要請のもと、広島県支部救護班(第3班)の調整要員として、熊本県内で救護にあたりました。

現地での主な活動は、益城町総合体育館救護所で島根県支部救護班と合同で応急診療を実施しました。

▷ 裏面へ続く

拠点となる熊本県支部から益城町総合体育館までの道のりは、通常であれば、車で片道20分ほどの場所ですが、地震の影響により、道路に亀裂、隆起、陥没等がおこっているため、緊急車両であっても通行が制限されている場所も多く、カーナビの指示通りに進むと通行できない場所に行きついてしまうことも多々ありましたが、事前に通行可能な道を調査し、救護所までの道案内をしてくださるボランティアの方々の協力により、約1時間30分程度で救護所へ辿り着くことができました。

救護所のあった益城町総合体育館には、体育館内はもちろん、通路や建物の軒下で横になっている方、敷地内の駐車場で車中泊をしておられる方など約1,400人の被災者の方々が避難しておられました。

第3班の救護所での活動の時間帯が22時から翌朝6時までというシフトであったため、診療を行った患者数は日中に比べかなり少なかったですが、受診された患者さんや、ご家族の方々からは、医療機関への行く交通手段が乏しい中で、「救護所が24時間開いていることで安心する。」「診察してくれて、ありがとう。」といった感謝の言葉を数多くいただきました。

今回の活動で、感謝し、感謝されることの大切さを再認識しました。（中四国ブロック血液センター 用度課 小田原弘周）

九州BBC製剤支援 2016.4.21～2016.4.27

4/19 16時頃 九州支援メンバーの候補であることが告げられ、意思確認があったが時期等、すべてが未定であった。（宿泊施設が確保出来ないとのこと） 4/20 出発日が翌日であると連絡あり。 4/21 14日の発災から8日目に出発し、支援期間は一週間（4/21～4/27）の予定。なお、第1班の製剤支援は7名（内本社1名）、検査支援は1名であった。

状況は、震災による交通網の寸断による影響が大きいとの話であった。宮崎・鹿児島からの九州BBCへの原料血液の搬送は九州自動車道を使用しているが、熊本県内での通行止めのため、帰着時間に大幅な遅れがある。支援当時、通常なら18時台の帰着が22時以降や日付が変わっての帰着もあった。赤血球製剤を製造するためには、24時間以内の分離完了が必須であるため、特別に翌朝7時からの早出勤務により対応せざるを得ない。しかし職員への負担が増し、自製造所内ではカバーしきれない為、支援を要請したそうだ。

支援内容としては、原料血液の分離作業が主であったため、支援メンバーを早出勤務と遅出勤務に分けて作業にあたった。

第1班として支援活動に携わり感じたことは、支援する側、される側、いずれも情報や指揮を統括する部署なり人が、非常に重要であると感じた。

また今回の震災では、九州BBC全職員の安否確認に2日を要したそうだ。実際に当事者になった場合、安否確認メールや緊急連絡網が機能するかどうか、日頃の訓練や見直しが大切ではないだろうか。

支援活動という貴重な体験が出来たと同時に、様々な課題やその対応について考えさせられる一週間であった。

今回、大変な時期に温かく支援メンバーを迎えてくださり、配慮していただいた九州BBCの方々に感謝しております。ありがとうございました。（中四国ブロック血液センター 製剤一課 宇川靖司）

熊本地震に伴う供給支援について

4月14日の熊本地震発生より11日目の4月24日、中四国ブロック血液センター職員2名、広島県赤十字血液センター（以下BC）職員2名、山口BC職員2名総勢6名、緊急車両広島2台、山口1台、運搬車両広島1台のチーム編成で4月25日より29日まで5日間の供給業務支援の役割を担って熊本へ出発した。

熊本BCへ向かう九州自動車道は、植木ICより益城熊本空港ICは緊急車両のみ通行可能の状態で特に益城熊本空港ICから松橋ICまではひどい状況であった。

熊本BCの建物は倒壊を免れてはいたが、供給業務は道路が寸断されていることもあり配送に時間がかかるという状態であった。熊本BC職員と2名で医療機関の建物2階検査室に血液配送中、震度4の地震に遭遇したときは少し身構えた。医療機関は倒壊を免れていたが建物には多くの損傷が見られた。行く先々で垣間見た悲惨な現地の風景は住民の方々の避難生活を考えると当分の間忘れることはできないと思った。

今回、倒壊した建物や波打つ道路、巨大な山崩れなどを見て、地震のエネルギーの強大さをまざまざと見せつけられた。また高速道路の早期開通、ライフラインの復旧など人間による改修・回復の速さにも驚かされた。医療支援等に当たっている救護班・災害救助班等の活動は災害時には欠かせないものであり、今回の支援で体験したことを今後起きうるであろう緊急時に役立てたいと思う。

（山口県赤十字血液センター 供給課 伊妻頭治）

